

湘南ベルマーレ クラブカンファレンスメディア対応 議事録

会場：平塚市中央公民館

登壇者：

代表取締役会長 塩田 徹

代表取締役社長 大多和 亮介

取締役 真壁 潔

1. 代表取締役会長 塩田 徹 発言

本日はこのような場にお集まりいただきありがとうございます。

まず、皆さまにご心配をおかけしていることについて、残念な思いをさせてしまったことを心からお詫び申し上げます。

私がベルマーレの会長として最大のテーマとして考えているのは、J1への早期復帰です。

J2に降格したことでのクラブの収入は大きく減少し、クラブのインパクトも小さくなっていますと認識しています。この現実を正面から受け止めています。

その中で重要なのは、戦力を過度に落とさないことです。

選手への投資、つまり戦力を削ることなく、J1復帰が遠のかないようにしていきたいと考えています。

現在、2026年4月から2027年3月までの予算を検討中ですが、

アカデミーを含む選手人件費は約13.5億円程度を想定しています。

1月初旬の新体制発表時に、誤ったスライドが表示されてしまいましたが、これは事務的なミスであり、正しくは13.5億円程度です。

現状の財務状況を踏まえつつ、可能な限り選手人件費を維持し、J1復帰を前提とした判断をしています。

次に、責任企業であるRIZAPとしての投資についてです。

2026年4月から2027年3月までの期間で、約10億円規模の投資を検討しています。

これは最初から10億円が必要というよりも、積み上げた結果としてその規模になる可能性が高いという考え方です。

内訳としては、

従来通りのスポンサー支援：約 2 億円

マーケティング・グッズ販売等による収益支援：約 2 億円

RIZAP LABO（練習施設）への投資：約 5,000 万円

J2 降格による営業赤字補填：約 5 億円程度

RIZAP LABOへの投資は、単なる設備投資ではなく、選手のトレーニング、コンディショニング、リカバリー、データ活用など、選手を支える環境を強化し、戦力強化につなげることを目的としています。

また、RIZAP 単独ではなく、地元企業とも連携しながら、クラブの未来につながる取り組みを進めていきます。新スタジアム構想を含め、具体化した段階で丁寧にお伝えしていきます。

就任から数か月、サッカークラブが地域に根ざした公共性を持つ存在であることを、改めて痛感しています。

RIZAP として責任企業として、J1 復帰と地域に根差した運営、今後もベルマーレにとって何が最善なのかを考え抜いていきます。

以上です。

2. 取締役 真壁 潔 発言

これまでの経緯についてお話しします。

RIZAP とは 2018 年からスポンサー関係が始まりました。当時は三栄建築設計様からマイнесポンサーをいただいていましたが、J1 で戦うには不十分ということもあり、追加支援を模索しました。

結果として、RIZAP さんからは 3 年 10 億円の支援と増資を受け、これまでの 8 年間で約 20 億円規模の支援をいただいてきました。

昨年も財務超過を回避するために 8000 万円の追加支援を受けています。

今回の件についても、対立があったわけではなく、冷静に話し合いを重ねました。会話が不足していた点は反省すべき点です。

4回の貸し付けの件は、役員会ではベルマーレの利益を残すために実行は、我々も賛成したし、無理やりやらされたという事実はない。

ただ、皆様から頂いたお金を融資に使うのはいかがなものなのか？ということをメディアに対して発言し、一部報道で騒がれた。しかし、私たちも賛同した責任もあるため、辞任することになっている。これは RIZAP さんがどうのではなく、皆さんに申し訳ないという気持ちで辞任する。

選手移籍に関するサッカー収入 6 億円の指摘についてですが、報道では、RIZAP が無理やり選手を売却させたとなっているが、現在のサッカー界では、売りたくて売れるものではありません。

違約金を超えるオファーがあり、本人が移籍を希望した場合、止めるることはできません。今回の移籍もすべて契約条件を超えるオファーによるものであり、意図的な売却ではありません。6 億の予算計上も、当時の代表 2 人で策定し決めたものである。

そういう誤解に対して、しっかりと会話し、そして J2 を迎えるに際し、ありがたいことに、入場料収入は下がるし、いくつかのスポンサーも落ちている中で、13.5 億もの選手人件費をセットできている状況に感謝している。

3. 代表取締役社長 大多和 亮介 発言

来シーズンに向けた予算編成は一定の目処が立ちつつあります。
ただし、これで十分だとは考えていません。

昇格争いに臨む 26-27 シーズンが始まる前の夏に向けて、
どのようにクラブとして後押しできるかが経営上の最大の課題です。

勝負と集客、この 2 点に正面から向き合い、
クラブの成長と売上拡大に取り組んでいきます。

4. 質疑応答（全文）

Q1（通信社）

先ほど選手人件費が 13.5 億円というお話をありがとうございましたが、昨シーズンと比較するとどの程度下がっているのでしょうか。また、約 10 億円規模の投資について、過去 3 年間との比較感も教えてください。

A (塩田 徹)

昨年度は協賛 2 億円、補填を含めて約 3 億円程度の支援がありました。
選手人件費に関しては最大値で見ると、約 10% 程度の減少と捉えていただければと思います。

補足 (大多和 亮介)

J リーグでは毎年財務諸表の公開が義務付けられており、25 年度決算はまだ確定していません。
現時点ではあくまで仮の数値として、約 10% 程度の減少と理解いただければと思います。

Q2 (地域メディア)

10 億円規模の投資について、スポンサー 2 億円、マーケティング・グッズで 2 億円、施設投資 5,000 万円という説明がありましたが、それ以外の内訳はどうなっていますか。また、キヤッッシュとしては実質いくらの支出になるのでしょうか。

A (塩田 徹)

マーケティングやグッズ販売は、基本的にはベルマーレ自身が行うのですが、
RIZAP として制作支援や販売支援といった形で関与します。

J2 降格によってトップラインが下がり、売上減少により営業赤字が出る可能性が高いと考えています。

その赤字補填も含めて、合計で約 10 億円程度を想定しています。

キャッシュで出すか、PL 上での補填かについては、手段を含めて現在検討中です。

Q3 (同)

ベルマーレが頑張れば、RIZAP の支援はスポンサー 2 億円と施設投資 5,000 万円で収まる

という理解で良いでしょうか。また、10億円規模の投資がRIZAP自体の株主に与える影響は。

A（塩田 徹）

黒字化できればスポンサー2億円と施設投資5,000万円で済む可能性はありますが、それだけで黒字にするのは厳しいと見てています。

株主への説明については、成長ストーリーをどう描くかに尽きます。
短期的な赤字であっても、将来の成長につながる投資であることを示せれば、株主の理解は得られると考えています。

なお、現在はまだ予算検討中であり、確定ではありません。

Q4（同）

過去に「3年で何億円」といった話が宙に浮いた背景もあり、
今回どこまで確度のある話なのかをサポーターが気にはしています。
また、増資の可能性についてはいかがでしょうか。

A（塩田 徹）

現在、さまざまな手段を検討しており、この場で詳細はお話しできません。
もう少し時間が必要だとご理解ください。

Q5（スポーツ紙）

13.5億円の人物費は、J2全体の中でどのあたりの水準になりますか。

A（大多和 亮介）

他クラブの今後の予算は把握できない部分もありますが、
24年度決算ベースで比較すると、上位6位前後に入る規模と考えています。

Q6（同）

会計年度が4月～3月という中で、夏の補強費用はどのように考えていますか。

A（大多和 亮介）

あくまで2026年4月から2027年3月までのPLをベースに考えています。

27年4月以降のことも考慮しながら、現時点では把握できる範囲で判断しています。

補足（眞壁 潔）

J2では最低でも10億円程度の入件費がないと、昇格争いに加われないのが現実です。
ただし、最初から多額を使えば良いというものではありません。

夏の勝負どころで「カードを切れる余力」を持つことが重要であり、
従来の湘南のやり方を尊重してもらわなければありがたいと考えています。

Q7（全国紙）

10億円という数字は、社内で一定の了承を得た構想という理解でよろしいでしょうか。

A（塩田 徹）

その通りです。

現在、来期予算を積み上げている段階であり、取締役会での正式決議はまだです。

報道にあたっては、**「構想中」**という前提で扱っていただければ問題ありません。

Q8（通信社）

その決議はいつ頃になる見通しでしょうか。

A（塩田 徹）

現時点では2月末頃までに決めたいと考えています。

ただし、確定日を断言できるものではありません。

Q9（地域メディア）

RIZAP グループは利益を重視する企業という印象があります。
これまでベルマーレをどう位置づけてきたのでしょうか。

A (塩田 徹)

これまで、きちんと利益を出してきました。
今回、初めて J2 降格という状況に直面し、投資と回収のバランスをどう取るかが課題です。

中長期的に売上と利益が伸び、地域に貢献できる姿を描ければ、
短期的な赤字は許容されると考えています。

Q10 (スポーツ紙)

RIZAP グループとして、ベルマーレを持つ意義は何でしょうか。

A (塩田 徹)

最も大きいのは、経営理念との親和性です。
人材育成を軸とする理念と、サッカークラブの育成構造は非常に近い。

ベルマーレは、理念を最も体現してくれるグループ会社の一つだと考えています。

Q11 (専門メディア)

海外移籍や育成を含めた体制強化について、具体的な打ち手はありますか。

A (大多和 亮介)

海外クラブと直接やり取りできる体制づくりが重要だと考えています。
そうした能力を持つ人材を強化部内に迎え入れる取り組みを進めています。